1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　おきなの里　）

事業所番号	0671800167		
法人名	社会福祉法人尾花沢福祉会		
事業所名	ハイマート福原グループホーム		
所在地	尾花沢市大字野黒沢554-35		
自己評価作成日	令和2年11月21日	開設年月日	平成15年　3月　6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和　3年　1月　14日	評価結果決定日	令和　3年　1月　29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「安心・笑顔・協力・信頼・真心・尊厳」を運営理念とし、入居者様が安心して日常生活が送っていけるように、また、家族の方も安心してご利用いただけるよう手厚い支援の提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

新型コロナウィルス感染症により様々な活動に制限が強いられる中、少しでも利用者・家族等が安心して暮らせるように感染症対策を強化しながら、医療機関と看護師が連携して適切な受診や職員へのフォローにあたり、利用者の健康管理に努めています。今期は地域との交流や家族会行事も出来なくなっていますが、その分利用者とのコミュニケーションを密にして一日に一回は笑ってもらおうと工夫を凝らして関わり、家族等ともこまめに連絡を取って日頃の様子を伝え、ガラス越しの面会や電話で声を聞いてもらうなど真心をこめてサポートしています。隣接する同法人の介護老人保健施設と協力しながら安心と信頼を軸に笑顔あふれるアットホームなグループホームをめざして取り組んでいる事業所です。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,37）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　（参考項目：37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：35,36）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：48）		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
		○	4．ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：29,30）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
			2．数日に1回程度
			3．たまに
		○	4．ほとんどない
64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1．大いに増えている
		○	2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
65	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1．ほぼ全ての職員が
		○	2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての利用者が
		○	2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1．ほぼ全ての家族等が
		○	2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内などに掲示し、管理者および職員で運営理念を共有を行っている。	理念を会議や朝礼時に皆で唱和して意識付けを図っている。馴染みの言葉で寄り添い、笑顔に繋がる関わりで利用者が安心して過ごせるように心掛け、家族等とも連絡を密にして信頼関係を築きながら理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアで花壇の花植えや施設行事を通して交流を行っていますが、今年度は、新型コロナウイルスの感染予防により一緒に作業できませんでした。	例年であればボランティアの方々と一緒に花壇作りを行い、地域の運動会や子ども神輿を皆で迎え交流を楽しんでいたが、今年は新型コロナウィルス感染症予防のため全て出来なくなっている。秋口に利用者と職員で花の種取り作業をしてコロナの終息と春季を待ち望んでいる。	
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校及び地区公民館などから要請があれば施設職員が認知症の講習会を実施していたが、今年度は、新型コロナウイルスの感染予防により実施できませんでした。		
4	(3)	**○運営推進会議を活かした取組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナウイルスの影響により会議は書面にて報告のみになっています。必要に応じて意見等は、連絡を頂くようにしています。	コロナ禍で会議は「近況報告やコロナウィルス感染症対策、大雨による断水時対応」など全て文書での報告となっている。メンバーには郵送や直接出向き手渡しして事業所で取り組んでいるコロナ対策等に気遣いの言葉をもらっている。	会議の議事録などは家族等や職員にも周知できる機会が必要と思われ、開示方法や手段の検討に期待したい。
5	(4)	**○市町村との連携** 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや電話で災害対策状況や感染症対策など情報の交換を日頃より行っている。	行政からは豪雨災害の断水時に飲料水や給水車の手配、コロナ対策での手指消毒アルコールやマスクの在庫確認等で協力を得ており、指定更新時には適切なアドバイスをもらうなど連携しながら良好な関係を築いている。	
6	(5)	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員に身体拘束に対して理解を深めてもらえるよう内部研修などを実施している。	身体拘束廃止に関する指針を作成し、毎月身体拘束対策委員会で対応事例を基に職員全員で検討している。またユニット会議で利用者の情報を共有して帰宅願望の方の対応などを話し合い、認知症を理解して統一したケアで支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について、施設内研修などを実施し理解を深め、防止を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度利用者はいないが、外部研修などへの参加を行い、理解を深めている。今年度は、コロナウイルスの影響により、研修等への参加はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に管理者が説明を行い、不明な点などを確認しながら十分理解していただけるように行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置や家族が来所された際に常に声掛けを行い、話しやすい関係作りを心掛けている。	コロナ禍で面会制限もあり、家族等とは電話や玄関先で受診結果や日頃の様子、利用者の要望（趣味の材料や衣類等）を伝えている。利用者・家族等の意見は連絡ノートで共有しながら担当者が責任をもって対応してサービスに反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を実施、職員の意見を聞き、その意見を運営に反映するように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で毎年検討を行い改善に努めている。		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修の実施や外部研修参加の機会を持つことで職員の質の向上を図っている。	本部講師による動画資料を使った「コンプライアンスと倫理要綱、身体拘束と高齢者虐待防止、認知症の方への対応学習について」の研修を、また看護師・管理者の講師で「感染症について」の研修を実施して職員の質向上を図っている。法人の資格支援制度もあり、職員の意欲向上に活かしている。	内外研修を年間計画で予定し取り組んでいるが、受講後は職員の理解度を確認するなど更なるレベルアップに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最北地区グループホーム連絡協議会へ参加し、情報交換を行っている。 　また、法人内事業所の理学療法士に介助方法などの相談を行い、助言をもらったりしている。	コロナ禍で最北地区グループホーム連絡協議会「おらだの会」はメールでの開催となっている。7事業所輪番制で問題提起し、利用状況や感染症対策、コロナ禍での行事や面会について情報交換しながらサービスの質向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に困っていることや現在の状況などを、自宅などを訪問し、話を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込み時や本人面接時・契約時など直接話ができる機会を作り、随時、電話での相談も受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等と話をしている中で、その時に何を必要としているのかを見極めて必要に応じてたサービスなどの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯干し、たたみ方を一緒にすることで暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況などを踏まえ、家族より外出や外泊などの協力を得て絆を大切にしながら共に支えていけるような関係構築に努めています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もこれまでの関係が途切れないように面会や外出などの支援している。今年度は、新型コロナウイルスの影響により面会・外出などの支援ができていない。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がいつでも話ができるような環境作りや機会を設けられるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、いつでも連絡が取りあえるように説明を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションから本人の思いや希望など聞き取れるように努めている。	入居前に利用者・家族等からこれまでの生活状況やニーズなどを聞き取り、入居後は関わりの中での会話や様子、変化に気を配りながら思いや意向の把握に努めている。利用者の発語や行動は生活記録簿にきめ細やかに記録して共有し、ケアやプランに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅へ面接に行き話を聞いたり、入居時などに家族よりこれまでの生活状況を再度聞くことで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に自宅へ面接に行き話を聞いたり、入居時などに家族よりこれまでの生活状況を再度聞くことで把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を開催し、利用者の状況の把握に努め、その都度検討を行っている。	介護計画は出来ることを見極めて可能な限り挑戦して維持に繋がるよう作成している。 日々、または週単位で達成度を確認して、ユニット会議で実施状況を皆で話し合い、評価・検討してプランの継続や見直しを図り、家族等からも理解をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に記入することで情報の共有を図り、必要に応じて見直しを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑作業や花壇の整備を行う際に、ボランティアの方々に協力していただいております。		
29	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を確認し、定期的に受診及び往診、また、状態変化があるときに連絡・相談を行い、通院や往診の対応を行っている。	内科・精神科については往診してくれる2医療機関の医師を全員がかかりつけ医としている。看護師が診療に立会い利用者のバイタルや健康状況を伝え、他科受診時は家族等とともに同行している。結果は看護師がすべて家族等に伝え共有し、また日常の健康管理で家族等の安心に繋げている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師と利用者の状態について情報共有を図り、必要に応じて受診などができるように支援している。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院の関係者（相談員や看護師など）と連絡を取り情報交換を行えるよう支援しています。		
32	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、家族と十分に話し合いを行い、状態の変化があるときは主治医に連絡し指示を仰ぎながら支援している。	入居時「重度化した場合における(看取り)指針」により事業所方針を説明し看取りは原則行わないことに同意を得ている。呼吸やバイタルの変動など看護師の観察結果を医師に伝えて重度化・終末期の判断を行い、家族等との話し合いで意向を確認しながら入院や移設などの対応を決めている。終末期ケアについては動画で研修を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などの対応を施設内研修などで実施し職員の知識の向上を図っている。		
34	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、そのうち1回を隣接する老健と地域の方の協力を得て実施してる。また、非常連絡網の訓練を行い、非常時でも伝達できるようにしている。	年2回（内1回は隣接老人保健施設と合同で）避難訓練を行い、消火器による初期消火訓練や避難誘導時間の計測で災害時にスムーズな行動が出来るようにしている。また7月の豪雨災害時の水道断水(6日間)では隣接施設と対応を協議して生活用水の確保や市へ飲料水、給水車派遣要請などで利用者の生活を守っている。	夜間は職員が各ユニット一人体制になることを踏まえ、夜間想定避難訓練の実施に期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権とプライバシーについて施設内研修を実施し、職員に周知徹底を行っている。	職員は利用者一人ひとりの思いや望む暮らしを共有し本人本位の支援に取り組んでいる。職員会議やユニット会議で話し合いケアの統一を図り、人格や尊厳を敬いプライバシーを守りながらその人に合わせて話しかけ、穏やかに生活していけるようにしている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活を送る中で自己決定ができるように支援することと思いや希望など話しやすくできるように働きかけている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課はあるが、その日の状況に合わせ柔軟に変えて支援できるように努めている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の能力に合わせその人らしい身だしなみができるように支援している。		
39	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	選択食など取り入れながら食事に楽しみを持っていただけるよう支援している。また、準備や片付けもできることはしていただけるよう支援している。	配食サービスにより主菜・副菜を賄い、ご飯・みそ汁は職員が作り、きざみやお粥など利用者に合わせた形態で提供している。週1回手作りランチを用意し好みや季節のメニューなどを取り入れ喜ばれている。利用者は配膳や下膳、リンゴの皮むきなど出来ることを手伝っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量・水分量を把握しながら、一人一人の状態に合わせ摂取できるように支援している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の状態に応じて口腔ケアができるように支援している。		
42	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表などを使用し、排泄パターンを把握し継続してトイレで排泄ができるように支援している。	排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンを把握し、起床時や食事の前後など声掛けしてトイレへ誘導することで、失敗の改善や自立に繋がっている方もいる。利用者の自尊心やプライバシーを守り、さりげない声掛けを心掛けている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう、体を動かす機会を作ったり、牛乳や水分を多めに取れるように支援している。		
44	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂に入浴剤を入れ、香りからもリラックスして頂き個別対応でゆっくり安心して入浴できるように支援している。	湯温や午前・午後の時間など利用者の希望に沿い、週2～3回を目安に入浴支援している。入浴剤を入れリラックスしてお風呂を楽しめるようにして、また嫌がる方も職員や日にちを変えて促している。手すりや滑り止め、脱衣場温度管理などで安全・安心に努めている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休んでいただけるように個別に照明の明るさの調整を行っている。また、生活の習慣に合わせ休息が取れるように室温の調整を行っている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり内服している内容をまとめていつでも確認ができるよう、また、薬が変更となった場合には個人記録に説明書を閉じ、確認できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態に合わせ、趣味や職歴を生かせるように役割をもってもらい、充実した生活が出来る様に支援している。		
48	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って外出できるように家族の協力を得ながら支援している。	今年はコロナ禍のため外出行事はすべて中止となり、天気の良い日に玄関前花壇の花を見に行くことが外気と触れる数少ない機会となっている。リビングでのラジオ体操やテーブル卓球、風船バレーなどレクリエーション活動で体を動かす機会を取り入れ気分転換を図っている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人ひとりの希望や能力によって家族と相談しお金の所持をしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙などをいつでもできるように支援を行っている。		
51	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある環境作りを心掛けており、照明など安心して生活いただけるように調整を行っている。	感染症予防対策をしっかり行い、広くゆったりとしたリビングは飾り付けや利用者作品、花などで季節が感じられる空間となっている。利用者は一日のほとんどをリビングで過ごし、皆と一緒に食事やレクリエーション活動を行い、気が合う同士でおしゃべりするなどアットホームな居心地良いスペースとなっている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間内でくつろげる空間を作り、利用者同士が気兼ねなく話ができるように工夫をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にテーブルやテレビなどの家電、じゅうたんなど本人の希望に沿って居心地の良い空間を作れるように工夫している。	居室にはベッド、洗面所、たんすを備え付けてあり、担当職員も交えてレイアウトを考え、冷蔵庫、椅子など馴染みの物を持ち込み住みやすい環境作りをしている。家族の写真を飾っている方や、携帯電話で連絡を取っている方もおり家族の絆を大切にして、これまでの生活を継続できるようにしている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせ、できることは安全に行えるような環境作りを行っている。		